

ウェブ補論 第9章 実質為替レート (p248)

目次

補論 9.1 実質為替レート

補論 9.1 実質為替レート

2 つの国の物価水準およびその変動を考慮に入れた為替レートのことを**実質為替レート**といいます。以下では自国として日本を、外国としてアメリカを考えて、実質為替レートについて説明します。この場合、自国通貨は円で、外国通貨はドルです。たとえば名目為替レートが 1 ドル 100 円の場合、外国為替市場で 1000 円を両替すると 10 ドルに交換できます。アメリカでコーラが 1 本 1 ドルで売られていたとすれば、この 10 ドルでコーラを 10 本購入できます。しかし、為替レートが同じ 1 ドル 100 円であったとしても、アメリカの物価が上昇し、コーラの値段が 3 倍になり、1 本 3 ドルになった場合、コーラで測ったドルの購買力が低下し、同じドルで買えるコーラの本数は 3 分の 1 に減ります。このように、名目為替レートが一定であっても、外国製品を売買する場合などで通貨を交換する際は、物価の変動から生じる通貨の購買力の変化を考慮する必要があります。

一般に、自国通貨と外国通貨との実質為替レートは、自国通貨に換算した外国の物価水準と、自国の物価水準の比として求められます。ここで、自国通貨に換算した外国の物価水準は、名目為替レートと外国の物価水準の積になります。以上から、実質為替レートは次のように計算することができます。

$$\text{実質為替レート} = \frac{\text{自国通貨に換算した外国の物価水準}}{\text{自国の物価水準}} = \frac{\text{名目為替レート} \times \text{外国の物価水準}}{\text{自国の物価水準}}$$

以下では例を用いて、実質為替レートの持つ意味を考えます。簡単化のために、コーラの値段が日米両国の物価水準をそれぞれ代表しているとします。当初は名目為替レートが 1 ドル 100 円であり、またコーラの値段が日本では 1 本 100 円、アメリカでは 1 本 1 ドルであるとします。このとき、実質為替レートは $100 \times 1 / 100 = 1$ になります。この結果は、円換算した際のアメリカのコーラの価格が日本と同じであることを意味します。さて、名目為替レートが 1 ドル 100 円のまま変わらない状況で、アメリカの物価が上昇し、コーラの値段が 1 本 1.5 ドルになったとしましょう。すると、実質為替レートは $100 \times 1.5 / 100 = 1.5$ になり、1 から 1.5 に増加します。これはアメリカの物価水準 (=コーラの値段) が日本の物価水準の 1.5 倍になったことを意味しています。このように実質為替レートは、自国通貨で換算した両国の相対価格 (物価水準の比) を表しています。